

第1回 武蔵野市NPO活動促進基本計画策定委員会 議事要録

- 日 時：平成17年12月13日（木）19：00～21：15
- 会 場：市役所 教育委員会室
- 出席委員：江上委員長、栗田副委員長、見城委員、千種委員、大谷委員、中川委員、
岩城委員、鈴木委員
- 武蔵野市：事務局 市民活動センター所長ほか3名

1. 開会

2. 委嘱状交付

3. 市長挨拶

NPOには重要な役割を担っていただきたいと思っている。市としても、専門性を持ったNPOとのパートナーシップという形で、一緒にやらせていただきたいという思いが強い。日頃から地域で活動いただいている経験も踏まえ、皆さんにご自由に闊達な意見をいただき、武蔵野市ならではの基本計画の策定にお力いただきたい。

4. 自己紹介

5. 委員長・副委員長選出

武蔵野市NPO活動促進基本計画策定委員会設置要綱に基づき、NPO活動促進基本計画策定委員会委員の互選により、全会一致で江上渉委員を委員長に選出した。その後、江上委員長が栗田充治委員を副委員長に指名した。

6. 議事

(1) 武蔵野市NPO活動促進基本計画策定委員会の公開・運営に関する確認

① 会議の公開

全会一致で会議は原則として公開で行なうことを可とした。また、武蔵野市NPO活動促進基本計画策定委員会傍聴基準も了承されたが、傍聴人の定員について、毎回10人を超える申し込みがある場合は改めて考える。

② 会議録の作成

会議録は事務局が作成し、要点筆記を原則とする。発言者の表記について、委員長は「委員長」、委員長以外の委員は「委員」、行政側の発言は「事務局」という形で統一する。会議録の内容については各委員にも確認していただき、委員長が確定する。

③ 会議録の公開

全会一致で委員会の会議録は原則として公開することを可とした。また、会議録の公開は市政資料コーナーへの配架及び市のホームページへの掲載により行う。

(2) 武蔵野市NPO活動促進基本計画の位置づけ

武蔵野市第四期基本構想・長期計画に基づき、NPO団体、市民活動団体、ボランティア団体等の社会貢献的活動を行う団体と行政がそれぞれの特性を生かしながら、パートナーシップを発揮し、地域の課題解決及び公的サービスの提供に取り組む体制づくりを進めるため、NPO活動の促進、協働のあり方に関する市の目標や方針及び活動支援拠点の整備方針を示した基本計画を策定することが目的であると事務局より説明した。

また、実態調査、策定委員会の組織、武蔵野市NPO・市民活動ネットワークの設置、ワーキングチームの設置についても事務局より説明した。

(3) 武蔵野市NPO活動促進基本計画策定の流れ

第2回委員会を18年2月中旬に、第3回委員会は先進都市の視察で2月中旬または下旬に開催。第4回委員会を5月、第5回委員会に7月に開催し、その後、計画案を作成、発表し、それをパブリックコメントという形で市民に示しをしたいと考えている。そのパブリックコメントを受けて、第6回委員会を10月、第7回委員会を19年の1月に開催し、最終的な基本計画を決定していただきたいと事務局から説明した。

(4) (2)(3)の説明に対する意見・質問など

【委員】NPOと市との「協働参画」と言葉はすごくいいのだが、最終的にNPOが市の下請けとなるような組み方は避けたい。

【委員】市は、NPOの実務をどの程度ボトムアップすることを考えているのかを示せたらと思う。

【委員】ここは市がどうしなければならないかを作るところである。「NPO・市民活動ネットワーク」としては、行政や議会、企業に、パートナーを組むものとして、付き合い方のルールを作るなどの提案をしていかなければならないと思う。市の職員の意識改革という言葉が出たが、市の縦割りをなくし、ワーキングチームができたのは非常に良い例だと思う。

【事務局】この基本計画を、庁内の協働の実務をやっている担当職員、実際にNPOや市民活動をやっている団体からの視点、それらをトータルにこの委員会で審議していただくという3つの視点から策定していただきたい。

まず、市として大きな枠でNPO、市民活動を支えるような条件整備にはどういうことが必要なかを整理し、その後、市と協働したい団体に対し、協働のルールづくりや協働のあり方などの議論が必要だと思う。

「協働」という言葉も定義がされていなく、協働はどういう形態があり、協働を進めるにあたり、どのようなルールが必要なのかというところまでの部分とNPO全体の活動を活発にしていきたいという部分と2段階で整理をする必要があると考えている。

【委員】ボランティアセンターがあるが、潜在的なボランティア意識がまだ十分吸い上げ切れていないと思う。市民の活動が生きる方法を仕組みづくりの中に入れられたらとは思

【委員】ボランティアセンターは、コーディネーターという部分で非常に大事な役割であり、そういう方向性である。

【委員】ボランティアセンターなどの役割をある程度明確にできるような方向にも踏み込み、整理ができることも含めて検討すればいいのではないか。

【委員】この基本計画策定の目的を見ると、NPO法人格を持っている団体だけではなく、市民活動団体、ボランティア団体等の社会貢献的活動を行う団体も基本計画の想定する広い意味でのNPOということになるのか。この委員会がイメージするNPOというのは何なのか。

【事務局】長期計画の中では社会貢献的なNPO活動を規定しているが、NPOの起業志向がかなり強くなってきているので、起業支援という角度からのNPO活動の支援というのは、広い意味では、実態として出てきているのではないか。

【委員長】ビジネス志向だから必ずしも公益的な活動ではないかという、そうでないことを担っていたり、誰も担えないようなことをやっているNPOもある。だからといって、あまり多くのNPOを対象にしてしまうと本当に支援すべきところに手が届かないことにもなりかねない。

【委員】入り口は広くした方がいいと思う。公益性がどの程度かというのは行政が判断することであり、公益性を持って活動している団体にはきちんとした支援をすることを考えればいい。

【委員】市民とまちが生き生きと元気になるということが基本だと思う。収益をある程度考えて、自分たちのやった仕事に対しては対価をいただくというNPOも広い目で見てまちの活性化のためになっていれば、それも公益性であると思う。

【委員】この基本計画が想定するNPOのあり方というのはどういうものかということは何らかの形で明示しておく必要はあるのではないか。

【委員】基本計画を話し合う中で、行政の縦割りをもう少し市民にもわかりやすくしていく役割を果たせるといいと思う。

【事務局】市民相互に評価し合うような仕組みをどのように作れるか。間口は広く、アウトプットのところでいろいろな工夫を加えていくという整理の仕方かどうか。

【委員長】あまり細かい制度設計までここでしょうということはないと思う。制度づくりはまた別の場面で考えた方がいい。

(5) 「NPO実態調査について」の項目・内容について

NPOの実態調査を行うにあたり、NPOに質問する項目案を事務局で作成した。質問項目について、追加、修正など意見があったら、12月20日までに事務局まで連絡していただきたい。実態調査アンケートは、武蔵野市NPO登録団体66団体を対象として行い、1月5日にアンケートを発送し、1月20日までに回答していただくこと事務局より説明した。

(6) 先進都市の視察について

視察先として、兵庫県の「ひょうごボランティアプラザ」と神戸市の「協働と参画のプラットフォーム」を事務局より提案した。他に視察先として相応しい自治体や施設があれば事務局まで情報提供していただきたい。

7. 報告事項

(1) 民間非営利団体(NPO)・市民活動団体との協働事業調査

民間非営利団体(NPO)・市民活動団体との協働事業調査結果について事務局が報告した。

(2) ワーキングチーム「担当課とNPO団体との協働の現状・課題」の報告

ワーキングチームの構成とワーキングメンバーが個人の意見として提出した「担当課における協働の現状と問題点」「課題の解決策」について、事務局が報告をした。